第 2 回大会報告

早稲田大学　佐々木俊介（第 2 回大会共同実行委員長）

第2回大会は、2024年2月1日（土）、早稲田大学早稲田キャンパスを会場とし、213名の参加申し込みがあった。本大会は、午前の自由発表1・2、ユース・セッション、午後のオープニングシンポジウム、企画セッション、ラウンドテーブル、そしてクロージングセッションという構成で開催され、多様な立場から緊急人道支援をめぐる課題が検討された。

自由発表では、ウクライナ国内避難民への成人教育講座の効果測定、SAR画像を用いた建物被害のリモートセンシング、人道・開発・平和のネクサスを実践者の視点から捉える試み、発達障害当事者の「語りの力」をめぐる考察、災害ボランティア活動における情報公開や苦情・要望対応、緊急時の教育の最低基準研修の行動変容、「緊急人道支援の基礎講座」の受講者分析などが報告された。

ユース・セッションは、大会プログラム上、「大学生や大学は緊急人道危機に対し何ができるのか」を主題として位置づけられていた。加えて、閉会時には、学会としてユース・セッションや部門を明確に位置づけ、若い世代の参加を促していく方針が示されており、ユースの参画が大会全体の重要な柱の一つであったことがうかがえる。

ユース・セッションの様子

オープニングシンポジウムは、「人道支援と平和構築のネクサス―若い世代の挑戦・役割」をテーマとして開催され、山田満会長がモデレーターを務め、伊藤夕妃氏、忍足謙朗氏、永井陽右氏が登壇した。シンポジウムは、開催校企画として、特に若い世代の平和構築に向けた挑戦や役割を議論された。

オープニングシンポジウムの様子

企画セッション2「人道主義と人道支援」では、人道支援と開発支援の違い、人間の安全保障との関連、近年のODAポリシーの動向などが論点となり、今後も継続して議論を深めるべき課題であることが確認された。また、企画セッション3「ウガンダにおける人道・開発・平和の連携（HDPネクサス）」では、JICA、NGO、民間企業の実践報告を通じて、難民支援とホストコミュニティ支援、現地政府や支援機関との信頼関係、民間企業の役割などが共有された。

ラウンドテーブルでは、「NGOの動画広報と人権」「緊急人道支援におけるCash Plusアプローチ」「新しいシリアと人道支援」「人道支援におけるロジスティクス：企業連携の可能性」「長期化する紛争下における基礎的な学力の改善」「国内災害対応における効果的な支援調整にむけて」といった今日的課題が幅広く扱われた。

以上の諸報告を受けて行われたクロージングセッションでは、複数の分科会が同時並行で実施されたことを踏まえ、各座長らによって内容が共有された。また、閉会の挨拶では、多様なアクターが緊急人道支援に関わっていることがあらためて確認されるとともに、次年度の大会への参加が呼びかけられた。